

# 景気の動き

## 四 国（地域経済報告 – さくらレポート – ・日本銀行）

項目	2026年1月判断	前回（2025年10月判断）
総括判断	四国地域の景気は、緩やかに持ち直している。	同左
公共投資	持ち直している	同左
設備投資	増加している	同左
個人消費	持ち直している	同左
住宅投資	弱めの動きとなっている	同左
生産	振れを伴いつつも、弱めの動きとなっている	同左
雇用・所得動向	緩やかに改善している	同左

[日本銀行 2026年1月8日発表]

## 全 国（月例経済報告・内閣府）

項目	2026年1月月例	2025年12月月例	
基調判断	<p>景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。</p> <p>（先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待される。ただし、今後の物価動向や米国の通商政策をめぐる動向などの景気を下押しするリスクに留意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。）</p>	同左	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	同左	
設備投資	緩やかに持ち直している	同左	
住宅建設	弱含んでいる	同左	
公共投資	底堅く推移している	同左	
輸出入	輸出	おおむね横ばいとなっている	同左
	輸入	おおむね横ばいとなっている	同左
	貿易・サービス収支	おおむね均衡している	赤字となっている
生産	横ばいとなっている	同左	
企業	収益	米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられる中で、改善に足踏みがみられる	同左
	業況判断	おおむね横ばいとなっている	同左
	倒産件数	増加がみられる	同左
雇用情勢	改善の動きがみられる	同左	
物価	国内企業物価	緩やかに上昇している	このところ緩やかに上昇している
	消費者物価	上昇している	同左

[内閣府 2026年1月22日発表]